

「平戸市人口ビジョン(案)」・「平戸市総合戦略(案)」に関するご意見と市の考え方(回答)

	ご意見の内容		ご意見に対する市の考え方(回答)
1	<p>子育て支援について、昔の子どもは学校から帰れば、祖父母が世話をする家庭が多かったと思うが、現在は核家族化が進み、夫婦共働きの家族が多くなっているため、地域の人々の支えが特に必要となっていると思う。放課後の子どもの居場所づくりは子育てにとっても重要な課題の一つだと思う。</p> <p>平戸市総合戦略(案)の中で、今後の検討事項となっている「全市的な放課後学校間(児童クラブ、社会体育)の送迎対策」について記載があるが、田平地区では早急な課題でもあるので、早期の検討実施をお願いしたい。田平地区では現在、子育てを支援する地域ボランティア活動が活発に行われているため、田平地区をモデルにするとよいと思うし、NPO や地域の方の力でできると思う。他の保護者との話やPTAでもこの話題がいつも出てきている。この問題の早期解決により放課後の子どもたちの安全安心へつながり、平戸市が“子育てしやすいまち”となることを期待する。</p>		<p>近年、少子化、核家族化が急激に進行し加えて夫婦共働きなどにより、子ども達の放課後や休日の居場所も変化しており、市としても放課後児童クラブや少年スポーツ団体を支援し、子どもの居場所づくりを行っているところです。しかし、一方で組織の運営についてスタッフの確保など問題が生じ、存続や設置が困難な学校もあります。</p> <p>ご意見のように、田平地区では地域の課題として受けとめ、民間の方が学校間送迎に取り組まれておりますが、市としても子ども・子育て支援の対策として重要かつ全市的な課題と判断しております。</p> <p>現在、総合型スポーツクラブや放課後児童クラブと連携した、活動拠点までの送迎事業について検討を行っておりますが、支援方法や送迎に対する諸問題等があり、十分精査する必要があると考えているところです。</p> <p>皆さまの意見を踏まえ、対応策について関係団体等と協議・調整を行っていきたいと考えております。</p>
2	<p>基本目標3に「子どもを産み、育てやすい環境の更なる充実」と掲げられているが、子どもたちの放課後や休日、長期休暇の際の居場所づくりは非常に重要である。ボランティアによる送迎やNPOによる児童クラブの運営を田平町で先駆的に取り組んでいるので、今後行政の支援が必要な部分は十分な対策をお願いしたい。特に、放課後の送迎については、今後、少年スポーツも児童クラブも田平北小学校が拠点となり田平東、田平南小学校からの移動が必要となることから、しっかりとした対応がなされる事を願う。</p> <p>田平町での取り組みがモデルとなり、市内全域に波及され、若い世代の人たちの子そだてが充実してくるものと思う。また、平戸市で育った子ども達が市外へ出たときに平戸の良さに気付き、平戸へUターンし子育てを行うことで、今後の長期的な人口減少対策につながっていくことと思う。</p>		

「平戸市人口ビジョン(案)」・「平戸市総合戦略(案)」に関するご意見と市の考え方(回答)

	ご意見の内容	ご意見に対する市の考え方(回答)
3	<p>人は年齢に関係なく住んでいる地域で、年間に約100万円使うと言われている。100人居なくなれば1億という経済が、その土地から失われることになる。平戸はここ数年で1,000人単位での人口減少となっている状況にあり、移住、定住、子育て支援は必要であるが、“焼け石に水”であることを認識すべき。</p> <p>失われた経済を、一番手っ取り早く埋めることができるのは観光である。平戸はすでに観光地なので基盤はある訳だが、今の状態では年間200万人の観光客を達成できるとはとても思えない。</p> <p>まず、200万人とは、総人口が1億2,000万人としたとき、60人に1人が平戸にやって来るという数字。欧米のように宿泊数をもって統計をとること。現実を直視しない総合戦略などを市民として認めるわけにはいかない。(来客数ではなく、客単価を上げることに傾注すべき。)</p> <p>観光の見劣り感も平戸の問題。安価なプランでしか人を呼べない構造がある。根本的なところから観光を構築しなおし、「観光客に来て欲しい」のではなく、「観光客が来たいと思う」平戸を造り上げることが、雇用も所得も定住も上向きに上がることだと思う。</p> <p>この戦略は、行政がコンサルタントなどに依存せず、本当に平戸を愛する情熱で作るべきで、真剣さが伺われないこの(案)は、ただ「案」を「作る」仕事をするだけのものとしか思えない。</p>	<p>平戸市総合戦略は、国が掲げる「まち・ひと・しごと」分野の創生による人口減少社会の克服に向けて取り組むべき本市の施策について取り纏めたもので、今後は戦略的に実行していくことが重要となってきます。</p> <p>総合戦略における観光の数値に関しては、平成27年の宿泊及び県外ナンバーの車両の入込、現在の観光動向等を鑑み、目標を設定させていただきました。</p> <p>また、客単価については、ご指摘のとおり平戸観光の場合安価なプランが多いことは事実です。特に、宿泊単価等は低く設定されており、市内の宿泊施設においても、これを解消するべく、団体型から個人型へのシフトを鋭意努力しているところですが、</p> <p>しかしながら、現行のままで、団体型から個人型へシフトしても、お客様の満足度が向上しなければ問題解決にならないと考えております。</p> <p>観光振興は本市の重要な施策の一つであることから、総合戦略においては、観光のマーケティングによる分析に加え、各施設のおもてなしを抜本的に見直していくほか、大学との連携や交通対策等、様々な分野での平戸観光の再構築を図ってき、観光客の満足度を向上させ、魅力あふれるまちを目指していきたいと考えております。</p> <p>総合戦略策定にあたっては、民間の委員を含めた、ずっと住みたいまち創出本部専門部会において、具体的な事業提案を行いつつ成案したところです。</p> <p>今後、計画の進捗状況について検証し、状況に応じて事業内容、目標等の見直しも行いながら、「まち・ひと・しごと」の好循環を目指して参ります。</p>
4	<p>多子世帯保育料軽減事業で多子世帯の保育料軽減が新規事業としてあるが、多子であっても未就学児がいない場合に児童クラブの保育料は軽減されないのか。免除制度は今年度まで受けられるそうだが、来年度からは何もないとのこと。</p> <p>未就学児がいない多子世帯にも何かしらの支援事業があった方がより子育てしやすい環境になると感じる。</p>	<p>放課後児童クラブにおいては、3人以上の子どもがいる世帯で、2人以上が児童クラブに通い、かつ未就学児がいる場合、県事業により2人目から保育料減免を行っておりますが、平成28年度より所得要件が変更される予定になっております。義務教育就学前の児童を監護している場合を対象としており、未就学児がいない場合は減免対象としておりません。</p> <p>未就学児がいない多子世帯への支援事業のご意見については、今後の子育て支援のあり方を検討する際の参考とさせていただきます。</p>